

森林塾通信

『もつと光を、もつと風を』

第6回森林塾報告 テーマ「下草刈り」

九十八年の森林塾の植林の回に植えた三百本弱のミズナラは、その年に毛虫の被害を受けほとんど坊主状態になっているものが多く、先

き方が心配されました。三年経った今、眺め回すに
どうやら半分程度は残っていた模様です。年一回の下刈りですので、なかなかほかの樹木の上に顔を出せない状態でした。誤って刈られてしまつたものもありましたが、今回とても丁寧に下刈りをしても



長岡区有林の手づくり作業道の上下は気持ちの良い広葉樹林

らい光が良くあたり、風も通るようになりました。

箕輪ダムの集水域三千八百ヘクタールの十%に当たる三百八十八ヘクタールが箕輪町長岡区の区有林です。区でもラジキヤリを購入するなどして自分達での手入れを目指しています。車を置いて歩いた作業道も区民が作ったもので

ダムが九十三年に完成する以前から、島崎先生はこの区有林の山造りの相談にのる機会も多く、またゼミの学生さん達の研究用のフィールドとしても利用されてきました。なかの一人、松本敏郎さん



森さんPTAを奥さんにまかせて単身参加



すくすく伸びたカツラの間の佐藤さん

が手がけたのが今回お借りした現場。四十年を過ぎた、コナラ、サクラ、ホオノキなどの雑多な広葉樹を伐採し、そこにトチ、カツラ、ミズナラを植えました。「真っ直ぐにすくすくと伸びている広葉樹の林を造ってみたい」というのが松本さんの夢。できれば利用価値の高い広葉樹でという事ですが、われわれの生きていくうちに見られるかどうか、気の長い話ですがそれが山造りです。

松本さんのグループが植えたカツラはよく活着し、背丈も二メートルを越えるまでに大きくなり一安心の状態でしたが、北西向き四十度を越す急斜面では、トチはタケニグサやクマイチゴの藪の中にすっかり潜っていて、植えた百本のうち残っているのは二十本程度。ちよっとピンチでしたがイントラ宮崎、OB村谷さん率いる屈強グループがすっかりきれいにしてくれました。「空が見える、風が見える、気持ちいいね」とトチの喜ぶ声が聞こえてきそうです。これだけ残っていれば本



使っている鎌を見れば力の程はすぐ分かる



長坂さんスッポンタケの幼菌発見

数としてはまだ十分。枯れて穴のあいてしまった所は、タラノキやサンショウを残してくれてあってまた嬉しい。気温は三十度までは上がりなかつたらしいのですが、それでも夏の一日。大汗をかきました。お疲れ様でした。長岡区の大ボス、山口豊春さんがピールの差し入れをしてくださいました。ありがとうございました。次回暑気払いの時にご馳走になります。

今回の内容

第6回 7月7日(土)

下草刈り

8時30分 KOAアースウ

ィング集合。天気予報に

反して青空が広がる。梅

雨前線も南の方に下がっ

ているので、北の高気圧

の中にある模様。日差し

はきついが風は涼しい。

先生方の挨拶の後、数台

の車に分乗し箕輪ダム近

く、長岡区有林へ出発
9時20分 途中下車。箕輪ダ



どういふ趣味だ坂野さん、ヤママユガ(?)の幼虫



保科先生の教え通りに山浦さん



傾斜40度を越すカモシカコースでマイ造林鎌をふるう奥嶋さん

△湖(モミジ湖)沿いで下草刈りをする場所が見える。周辺の見渡せる山はほとんど針葉樹の山。広葉樹林は今日下草刈りをするところぐらいしかない。鳥崎先生のお話が終わり、いざ出発しようとしたとき、坂野の運転するバンのエンジンがかからず。駐車中のハザードでバッテリー上がりのハプニング

9時40分 ダム湖をぐるりと廻って作業道登り口に到着。ここからは約2キロの作業道を現場まで歩く。鳥崎先生の、周りの木々の説明を聞いているうちにあつと言う間に現場に到着

10時15分 保科先生から鎌の使い方、研ぎ方の講習、草刈り時の注意。研ぎは鎌の刃に手を沿わして手にけがをせぬようにと。草刈りは等高線に沿って

やや下向きに。刈った草はすでに刈った場所に置くように。鎌は静かに体を使って。などなど。そして、ひたすら忍耐と孤独に耐えることだとおっしゃっていた。そつだ、肝心な植栽した木々の説明を受けた。トチ、ミズナラ、カツラ、それぞれの葉の形を覚えて、植栽木を痛めぬように、これにはお金がかかっている

10時40分 いよいよ草刈りスタート。一列に並びそれぞれの手には造林鎌が手鎌。植栽木の横には間違つて刈らないように、松本さんが事前に目印の青い棒を立ててくれてあるが、それでも葉の形を一目で見分けるのは難しい。草刈りと言っても実際あるのは灌木で草を刈ると言うより木の枝を刈っている。なにより、斜面での作業は大変。切れ

る鎌ならいいが、研いでないと力任せにたいてしまう。これでは刃が一発でだめになってしまう。先生の話が一段と理解できる

12時 たつぷりと汗をかき、作業道に上がり、やっと昼食。みなさん、水分補給を忘れずにたつぷりと

1時 保科先生から刃研ぎの実演。刃も研げてくると音が変わってくると。そついわれると、音にも注意

1時30分 再び草刈りスタート。気温も上がり、汗が噴き出してくる。とにかく、きつい作業である

2時25分 やつと草刈り終了。みなさまお疲れさまでした

3時30分 KOAアイスウイングまで戻り、本日使った鎌を研いで、その後グリスを塗ってしまつておく。最後に保科先生

4時 保科先生から「下草刈りは木の一生を左右する大事な仕事。」という言葉をいただき終了



サマになっている溜さんの砥ぎ姿

参加者/上原さん、奥嶋さん、風見さん、片岡さん、菅さん、栗林さん、佐藤(誠)さん、塩谷さん、白壁さん、溜さん、長坂さん、久部さん、藤野さん、逸見さん、松本さん、森(秀)さん、山浦さん、渡辺さん

講師/保科先生、鳥崎先生、松本敏郎さん、スタッフ/川島、宮崎、大野、平林、坂野、此村、早川

次回以降の予定
第7回 7月20日(金)
間伐

三連休の初日、金曜日です。8時30分 KOAインパーク集合に変更します。お間違えのないように。

現場はインパークから真東、天竜川を越えた箕輪町の萱野高原入り口を予定しています。まずは現況の調査、そして間伐。
なお、夕方からは鳥崎先生の小屋に集合し暑気払いの予定です。



作業道の脇を流れる狸穴(まみあな)沢の清冽な流れ、アマゴの豊庫

後半戦の最初です。伐出といつのは本来切つて出すという一連の作業のことですが、「出し」の意味で使われる場合がほとんどです。出しのいろいろの方法をやつてみたいと思います。

二泊三日の合宿研修です。測樹、間伐、伐出の一連をやつてみます。測樹の予習を是非しておいてください。

Bコース 夏の部
8月1日(水)〜3日(金)

第8回 8月18日(土)
伐出

後半戦の最初です。伐出といつのは本来切つて出すという一連の作業のことですが、「出し」の意味で使われる場合がほとんどです。出しのいろいろの方法をやつてみたいと思います。



「ひるもよも山ばなし」

栗林 茂



まえばなし
 はるばる遠方から塾に参加されている皆さんの山造りに対する情熱には頭が下がります。とりわけ慣れない行き帰りの道中には十分お気をつけください。

で、私は現在、塾通信に印刷されている箕輪町に住んでいます。塾までは五十キロのバイクで馳せ参じております。

第一章 むかしばなし
 私がまだ小学生のとき、学

校の石炭ストーブの炊きつけのため、落ち松葉をとり山へ出かけました。でも、そういう山は好きじゃありませんでした。身近に山があっても苜蓿採りや山菜採りに出かけもしませんでした。そうそう、父母に連れられて燕岳に登りました。それが山を意識した初めての体験です。

次が中学校での集団です。長野県では多くの中学二年生が集団登山をしています。もちろん私も西駒ヶ岳(木曾駒ヶ岳)に登りました。ただ、当初の日程が台風の影響で延期になり、桂小場(樹木分類で車を停めたところ)から登って駒ヶ根の菅の台へ下山するルートが変更されて、宮田村の伊勢滝から登りました。おまけに、西駒の山荘に泊まったその夜、校舎一棟が火事になってしまいました。バスで学校が見える場所まで帰って来て、燃えた一棟のところが悪くなってしまっていたのを見たときの情景は今でも脳裏にしつかりと刻み付けられています。

大学生になってから、桂小場から登ることができなかった無念を晴らそうと、そのルートを登って無事目的を達成しました。ただし、日帰りの日程で下山は

ロープウェイでした。そんなで、私にとつての山は、頂上の三角点がまさしく恋人で、山頂を見て森を見ずで、高山植物や雷鳥が出迎えてくれたところでカメヲを向ける程度でしかありませんでした。その山行も十指で数えられるほどの回数でひとまず幕を引いてしまいました。

ところで、皆さんのリレー通信を読ませていただく、出生地やかつての生活の場と現住所が違って、日本中を渡り歩いていることに私などは驚いてしまいます。なんと大陸人的非日本人的かと。私は学生時代の五年間(一プラス四です)以外は、ずっとこの伊那谷界隈で生活しています。そのため、朝昼夕四方に山の四季があるのが当然で、都会で寝起きしていたときは、目線の高さに山の姿が見えないのがなんと物足りないう気分が過こしていました。まあ、文化のぬるま湯にはどっぷり漬かっていました。

第二章 いまばなし
 現在住んでいる集落には集落有林があるために、その仕事をする山林委員の役があります。妙な巡り合わせで、去年までの二年間この役をしなければならぬはめになってしまいました。下草刈りなどのごしたい仕事でしたが、仲間にも恵まれてどうにかこう

にかやってきました。山林委員といえば聞こえはいいのですが、私などはズブの素人で、山に入っても、ただただ刃物を振り回して除間伐をやったという体裁だけをつくって、すべてその場に切り倒しただけで、ハイおしまい、伐出などは皆無でした。「昔は皆が薪炭のために山へ入ってきてきれいになっていったのに」と一世代上の方のボヤキでした。

ちょうどそんな折、KOA森林塾、島崎先生・保科先生が紹介されたテレビ番組を目にしました。カミホトケの為せる業なのか、偶然なのか、集落の山林委員の仕事の体験と放送された山造りのテレビ番組とが相俟って一たす一以上のものを私に植えつけてしまったようです。塾で習うことができるとしたら、少しでも山造りのために何かができるようになるのではないかな、猫の手でも(トラ年です)いくらかはなんとか使いものになるんじゃないのかと。

難しいことはさておき、人手とずくと、他のところで使っている金銭の一部をまわすことさえできれば、わずかつつでも山造りが前進していくはずでしょうし、現在ではそうしなければならぬところにきていることは間違いありません。塾に通っている皆さんが心に思い描く山林の風景を妄想としてしまつちゃあいけません。

半世紀を生き延びてきて人生の後半戦になって、やっと山造りに手を染め始めた私にとつて、いったい何合目なでたどり着くことができるのか心もとないんですけれど、ちよつとでも山造りのお手伝いができるよう、この塾での時間を大事にしていきたいと考えます。

山国信州に生まれ育ちながら、ソヨゴを「アオキ」と信じて疑わなかったくらいしが樹木との付き合いのなかつた、山造りではズブの素人の私ですが、どうかよろしくお付き合いのほどを。

あとばなし
 山造りに汗を流したお帰りに、温泉はいかがでしょう。みはらしの湯(伊那市)・こまくさの湯(駒ヶ根市)・こまゆき荘(宮田村)・大芝荘(南箕輪村)・ながたの湯(箕輪町)があります。



朝、ボヤけた頭で電話の天気予報を聴きながら、「35度」の一言でパツキリ目を醒ました。今日の予想最高気温、35度、なんじゃそりゃ。梅雨だというのに今年の東京は晴れ続き、そして暑い。

森林塾に通い始めたのとちよつと同じ頃から新しくアルバイトを始めて、毎日皇居脇の日比谷公園の中にあるカフェレストランに通っています。客席は屋根なしなので、雨が降るとお店は大抵お休み。お天気に左右される毎日のせいか、日々の天候に近頃とても敏感になりました。

毎日見る街並ですが、皇居の周りには本場に日本の中心という空気があります。この国の在り方や進んでいく道や、人の暮らしを支えているいろいろなルールがこの場所で決定されてきた、そして今もされ続けているその歴史の深さ



日々、チャレンジです
風見 好美



意識して足がすくんだこともあったし、夏のキャンプで丘から日の出を見てその美しさに涙がでるほど感動したこともありました。まわりには自分

と同じように自然を大切に想う仲間がいて、自然の中での活動をライフワークとして生きている方達がいまいました。卒業して社会に出て、へこんだりもがいたりしつつも自分なりに道を決めてきました。が、森林塾は私の中のアンテナが大きく反応したもののひとつです。一昨年だったでしょうか？皆さんも塾のお昼時間などにヒラオをこ覧になつていたみたいですが、NHKのドキュメンタリー番組で森林塾を取材したものを観てとても強い刺激を受けたのが最初の出会いでした。

自然とのつながりの中で私には何が出来るだろう、何がよりむいてるんだろう、と日々想います。自分の内と外に向けられたアンテナが捉えるものには足を踏み入れて、心が「これだ！」と言ってくれるものを今年中には見つけたい。そう強く想っているのですが、森林塾での体験を受けとめながらこれから少しずつでも自分に力をつけて、次の一歩につなげていけたらと思っています。森林塾でもいつながりができていくように、皆さんと出逢えたことを大切にしながら参加していこうとおもっています。

七月にはいつて続いた梅雨の中休み、伊那も猛暑となりました。梅雨入りしてからも、都会で感じたような蒸し暑さはあまりなく快適に過ごしていたところへ、夏がきたことを実感させる暑さでした。それでも夜になれば外の空気はひんやりとして、風が吹けば少し寒いくらい。おかげで夏の夜の寝苦しさからはすっかり解放されそうです。昼間、風通しのため小さく開けた玄関に小クワガタがやってきました。童心に帰って、蜜を浸した綿でおもてなす。じっと見ていたけれど動く気配なく、この蜜は好みじゃないかと思いましたが、夜になってふと見ると綿の上に。そうか、君たちは夜行性だったねとメロンの皮で接待。その夜は小クワの観察会となりました。驚いたのはおしっこです。果汁を吸いながら結構頻繁におしっこを飛ばすのです。立ち去る様子もなく毎日気になる存在ですが、今度の週末には近くの林に連

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp



や重み、そんな空気を感ずます。そういう中にぼつとある公園や皇居の広場には、水があつて風があつて、緑と木陰があつて少しだけ広い空が広がります。都心には本当に少なくなつた緑の風を感じられるそんな環境で働けることは、今の私にはありがたい幸せなことです。

前よりもちよつとだけ東京が好きになりました。今は、こうして自分が生まれ育つた東京という街で自分らしく生きることに日々チャレンジしつつ、これから自分がどういふ道を選び、どこで何を目指していこうか一旦きちんと決めておきたいという気持ちで心の内と外にアンテナを立てて歩いていきます。

私、ただ漠然と親しみや好意を抱いていた木々や森に、ある意味ちんとかかわるようになったのは大学生の頃。大学で「野外教育」という学問に出逢つて座学と実践を両輪にもつ学習環境に恵まれて、ただただ好きだった山や森を初めて活動のフィールドの一面を持つものとして捉えるようになりました。春夏秋冬それぞれのキャンプ、登山や沢登り、山菜にきのこ採り、星空の下でのピバーグ。雪山に登りながら滑り落ちる危険と隣り合わせの中で死を

きないつて思うんです。頭の中でだけ理解したことを声高に叫んだところでやっぱり言葉に力がないしなにか見苦しい。伝わっていない。その土地に普通に在るものをきちんと自分の目で見て空気や風を感じたい。森林塾でなら、日本の山や森へのかかわり方もその技術もしつかり体験することが出来る、教えてもらえらる、そう思いました。今年から森林塾の中に加わつて今こうして皆さんと出逢うことができて、自分の力不足には目を見張るものがありますが(！)着実に山や森への見方は変わつてきています。

七月にはいつて続いた梅雨の中休み、伊那も猛暑となりました。梅雨入りしてからも、都会で感じたような蒸し暑さはあまりなく快適に過ごしていたところへ、夏がきたことを実感させる暑さでした。それでも夜になれば外の空気はひんやりとして、風が吹けば少し寒いくらい。おかげで夏の夜の寝苦しさからはすっかり解放されそうです。昼間、風通しのため小さく開けた玄関に小クワガタがやってきました。童心に帰って、蜜を浸した綿でおもてなす。じっと見ていたけれど動く気配なく、この蜜は好みじゃないかと思いましたが、夜になってふと見ると綿の上に。そうか、君たちは夜行性だったねとメロンの皮で接待。その夜は小クワの観察会となりました。驚いたのはおしっこです。果汁を吸いながら結構頻繁におしっこを飛ばすのです。立ち去る様子もなく毎日気になる存在ですが、今度の週末には近くの林に連



コラム

おわりに

不思議なことに今年の森林塾は今まで一度も雨に降られませんが、測量、下草刈りなどはいつも雨の中、というイメージが強いのですが、まったく雨に邪魔されません。メンバーの中に強力な晴男さんが晴女さんがいるのかもしれない。二十日の暑気払いには、ビールを一杯余分に注ぎます。では非名乗りをあげてください。今後ともよろしくお願ひします。

ます。どうぞよろしくお願ひします。

この時期都会で出会う虫といえはゴキブリ。構造上は大差ないのかもしれないが、小クワガタの来る伊那はちよつと幸せかもしれない。(テッカマン)